

防災関係技術の展示会や製品見本市について

1. 行政や民間団体が主催する防災関連展示会の例

① 防災フェア2006

開催頻度： 毎年（昭和57年～）

場 所： 全国主要都市

主 催： 内閣府、政令指定都市、防災推進協議会

出品物： 防災に関するブース展示、防災講演会、災害体験コーナー など

18年実績： 8月25日～28日 名古屋市内で開催、来場者約21万1千人

② 震災対策技術展

開催頻度： 毎年（平成9年～）

※「阪神・淡路大震災」を機に生まれた世界初の震災対策に焦点を当てた技術展。神戸、横浜では毎年開催。2005年には新潟県長岡会場でも開催されている。

開催日： 平成18年1月17日～1月18日（神戸会場 第10回）

平成18年3月22日～3月23日（九州会場 第1回）

平成18年10月4日～10月5日（仙台会場 第1回）

平成19年2月1日～2月2日（予定）（横浜会場 第11回）

平成19年5月23日～5月24日（予定）（大阪会場 第1回）

主 催： 各会場実行委員会・（財）神戸国際観光コンベンション協会・（財）神戸市防災安全公社 等

出品物： 震災・災害への備え（補強・備蓄・コンサルティング等）、震災・災害直後の緊急対応力（消火器・輸送システム・非常用トイレ等）、救援・復旧活動（仮設生活設備・データ復旧技術等）など

③ 危機管理産業展

開催頻度： 毎年（平成17年～）

開催日： 平成18年10月24日～10月26日

場 所： 東京ビックサイト

主 催： ㈱東京ビックサイト、特別協力：東京都

出品物： 防災（観測計測機器、消火資機材、救助システム）、リスク管理（BCP コンサルティング、NBCテロ対策資機材）など

17年実績： 来場者37,811人、出展：243社／560ブース

④ 2006防災フェア in KANAGAWA

開催頻度： 毎年（平成17年～）

開催日： 平成18年7月～10月頃

主催： 2006防災フェア in KANAGAWA 開催実行委員会

（東京ガス(株)神奈川支店、ボランティア団体など、共催：横浜市教育委員会）

※ 横浜会場、川崎会場、藤沢会場、海老名会場などの神奈川県内各地でシリーズ開催。防災シンポジウム、ワークショップ、パネル展示、防災キャンプなど様々なイベントを開催。

⑤ 河川環境展

開催頻度： 毎年（平成11年～）

※ 今年の開催は予定されていない。

場所： 幕張メッセ

主催： 河川環境展実行委員会

出品物： 防災・災害復旧技術、環境保全技術など

17年実績： 来場者 10,410人、出展： 51社／87ブース

⑥ 防災用品の公募展示（静岡県地震防災センター）

公募期間： 平成18年10月1日～10月20日

展示期間： 展示開始後半年間

主催： 静岡県

※ 平成18年度から新たに開始した制度で、広く公募した防災用品をモニター会議で検証し、認められたものについて地震防災センター内の展示コーナーに一定期間展示する。公募するのは、「屋内の家具、電化製品等の固定用品」、「災害時に使用できる簡易トイレ」の2種類（静岡県で購入可能な市販商品）。

⑦ かながわ防災フェア2006（神奈川県総合防災センター）

開催頻度： 毎年（平成10年～）

開催日： 平成18年10月14日

主催： 神奈川県

○ 防災テント村

防災用品展示販売、ガスの安全機器展示、漏電遮断など電気安全の確認、災害用伝言ダイヤル「171」の体験、救急体験教室、水パック製造機の実演、防犯・交通安全コーナーなど

○ 家具の転倒防止実演

○ 避難所用簡易間仕切りの展示

○ 催し物広場

消防車・救急車試乗会、初任教育生訓練披露、川崎市消防音楽隊カラーガード隊による演奏とドリル など

2. 別目的の展示会・見本市で防災関連コーナーを広げる工夫としての例

① Business Continuity Management 2006

Compliance & IT 2006

Storage Management World 2006

開催日 : 平成 18 年 11 月 21 日～11 月 22 日

場 所 : 新宿NSビル「NS イベントホール」

主 催 : BCMコンファレンス実行委員会

※ ITに関するハードウェア・ソフトウェアの展示、ソリューションデモ、商談、テクニカルデモが行われる。

※ 従来開催されていた Storage Management World、Compliance & IT に今年はBCM(事業継続管理)が加わり3イベント同時開催となった。

② 第36回建築総合展NAGOYA2006

開催頻度 : 毎年(昭和46年～)

開催日 : 平成18年10月12日～10月14日

場 所 : 吹上ホール

主 催 : 愛知建築士会、中部経済新聞社

出品物 : 国内外の建築材料、機器および関連製品

※ 出展対象別に設営される各ゾーンの中には『安心・安全』に特化したゾーン(防犯機器や防災設備などが展示される)が含まれる。

③ JAPAN DIY HOMECENTER SHOW

開催頻度 : 昭和53年の東京地区開催から大阪地区での開催15回を含め通算41回

開催日 : 平成18年8月24日～8月26日

場 所 : 幕張メッセ(平成18年)

主 催 : 社団法人日本DIY協会

出品物 : 住生活のリフォームの提案(インテリア・リフォーム資材・建材等)

※ 防災分野のコーナーを設置し、家具転倒防止器具やラジオライト、消火器などを展示している。

18年実績 : 来場者 71,072 人

④ 自治体総合フェア2006

開催頻度： 毎年（平成9年～）

開催日： 平成18年7月12日～7月14日

場 所： 東京ビックサイト

主 催： (社)日本経営協会

出品物： 災害対策、まちづくり、自治体経営支援など

18年実績： 来場者 21,800人、出展：156社／2,000ブース

※ 展示会（電子自治体ゾーン、災害対策ゾーン、まちづくりゾーン、自治体経営支援ゾーン）やセミナーで構成。自治体から各分野でのそれぞれの活動事例などPR。

3. 海外で開催される展示会等

① インターシュッツ（国際防火・防災・救助サービス見本市）

開催頻度： 5年に1回（1980年～）

開催日： 平成17年6月6日～6月11日

場 所： ドイツ ハノーバー国際見本市会場

次回（今年）はライブティヒで開催予定。

主 催： ドイツ産業見本市株式会社

※ 世界各国の防火・防災に携わる職業消防関係者、民間消防団、企業消防団、レスキュー及び防災サービス関係者、赤十字及び災害対策機関、関連公共機関、省庁・官庁、医者・薬剤師、保険会社、建設業界、国防、警察、鉄道、郵便の仕事に関係する専門家が一堂に会する場であり、また、世界の、あるいは未来の防火・防災設備や技術の動向を知る上で重要な見本市として知られている。

※ 「インターシュッツ 2005」への出展は46ヶ国から1,235社。日本からも7社が直接出展した。